

東京都のICT活用事例について

東京マラソン 主催：一般財団法人 東京マラソン財団

約37,000のランナーのうち約6,500人※が外国人の国際大会

多言語音声翻訳システムの試験活用

① 救護所

外国語話者の傷病人対応に多言語音声翻訳アプリVoiceTraを活用。

主な会話例

「どこが痛いですか」「心臓病はありますか」
「今から血圧を測ります」

② ボランティアへの周知

ボランティアが各自のスマートフォンにVoiceTraをダウンロードし、外国語話者との会話に必要なに応じて使用するよう案内。

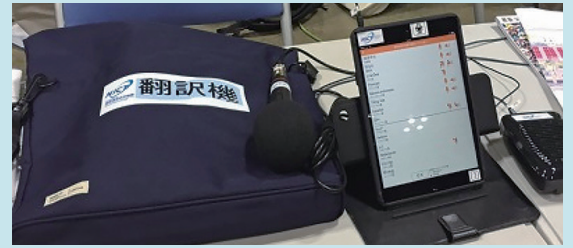
③ メガホン型翻訳機

警視庁が外国人ランナー、観覧者等の誘導、案内に活用。

主な会話例

「混雑の原因となります。立ち止まらないでください」
(日本語・英語・中国語・韓国語) など

※2016年実績より



VoiceTraは雑音対策のためマイク等を接続して対応

©一般社団法人
東京マラソン財団



メガホン型翻訳機の活用



中学校での交流会の様様



中国語とブラジルポルトガル語の会話



ハノイチーム(ベトナム語)と東京チームの会話

東京国際ユース(U-14)サッカー大会 ジュニアスポーツアジア交流大会

主催：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団ほか

国内外の十数都市、約300名の選手、監督らが参加する国際大会

多言語音声翻訳システムVoiceTraの試験活用

① 学校訪問・文化交流

日本の中学生がタブレットを持ち、部活動紹介や交流会において双方向の会話を実現。

② 選手交流会

選手同士の会話を促進するためタブレットを貸出。日本人のみならず、例えば北京チーム(中国語)とサンパウロチーム(ブラジルポルトガル語)等の異国間の会話の補助に活用された。

※総発話数は約8000件(2016年実績より)

東京都・千代田区合同帰宅困難者対策訓練

主催：東京都、千代田区

多数の帰宅困難者が発生した想定で、駅・商業施設・公共施設の管理者などが連携し、混乱の防止や安全確保に努めるための訓練

多言語音声翻訳システムVoiceTraの試験活用

① 帰宅困難者のうち外国語話者への情報提供

語学ボランティアやICTを活用する訓練を実施。VoiceTraや、メガホン型翻訳端末を試験的に利用して秋葉原駅で外国語話者への情報提供実験を実施。

② 普及啓発

NICTは日比谷公園における普及啓発展示に参加し、VoiceTraのほか、聴覚障害者コミュニケーション支援アプリの「こえとら」及び「Speech Canvas」を展示。



英、中、韓、ベトナム語に分かれ、VoiceTraで必要な情報提供等を実施



日比谷公園における普及啓発展示でのNICTブース

東京都では、総務省や国立研究開発法人情報通信機構(NICT)等と連携し、多言語対応に有用であるICTツールを実用的に広める上で、既存のイベントにおける実証実験を繰り返しています。